

# 保育課程

保育理念 (事業運営方針)		共に暮らす 共に育む		保育方針		1、子どもたちの心身の健康を育む 2、子どもたちの自発と自立を支える 3、子どもたちの創造力と表現力を培う		保育目標		1、子どもたちの「個性と公共性」の発達を援助する 2、仲間たちとの「遊び」を通じた人間関係を構築する 3、集団生活から生まれる「協調性と社会性」を重視する 4、家庭と連携して、育児の喜びと苦労をともにする 5、環境(人、自然など)の特性を有効に活用する					
社会的責任			人権尊重			説明責任			情報保護		苦情処理・解決				
○児童福祉法・保育所保育指針に基づく児童福祉施設として、児童・保護者・地域に対し、保育所の役割を確実に果たす。 ○職員は公私を問わず成熟した社会人であることを心がける。			○基本的人権を尊重する。 ○児童の最善の利益を考慮する。 ○児童を個人として尊重する。 ○保護者もまた個人として尊重する。 ○職員の生活権を保障する。			○保護者や地域社会に対して、当園の理念・方針や保育活動の目的・計画を、応答的な手段を用いて説明する。 ○日々の児童の様子や活動の内容を、多様な手段を用いて説明する。			○児童福祉の精神に基づいた保育事業を遂行するため、取得した名前・生年月日・健康状態等の個人情報、当園の保育方針の範囲内で利用することができる。		○苦情解決責任者である園長のもとに、第三者委員を含めた苦情解決処理委員会を設置する。 ○苦情解決処理委員会の内容について、利用者すべてに周知する。				
☆発達過程 0～2歳児の年齢別3クラス、3～5歳児クラスの縦割り2クラスの計5クラス編成。 保育所保育指針及び当園の理念・保育方針・保育目標・発達指針に基づき、年間指導計画を作成。 子どもひとりひとりの発達を踏まえて、養護と教育が一体となった保育を展開する。						☆主な行事 進級・入園式、卒園式、運動会、発表会、宿泊保育(5歳)、宿泊保育(4歳)、親子遠足(4～5歳)、給食展示試食会、山登り(5歳)、遠足(3～4歳)、遠足(3～5歳 年2回)、お誕生日会、節分、おもちつき、鏡開き									
年齢別 保育目標	0歳児	・担当制を通じて、しっかりした人間関係をつくる。 ・遊びや食事を通じて、五感の発達を促す。 ・快、不快を感じることが出来る環境をつくる。 ・屋外での自由遊びを十分に保障する。				3歳児	・遊びや身近な生活経験を通じて、仲間との関係を育てる。 ・基本的な生活習慣の自立に向かう環境をつくる。 ・身体全体を使った活動を十分に保障する。 ・自分の要求や思いを、言葉や行動で表現する環境をつくる。								
	1歳児	・一人遊びを十分に保障する。 ・多様な経験を通じて、言葉を獲得できるようにする。 ・基本的な生活習慣の獲得に向かう環境をつくる。 ・探索活動を十分に保障する。				4歳児	・集団生活を通じて、自律に向かう環境をつくる。 ・運動や製作を通じて、できた喜びを味わえる環境をつくる。 ・自分の思いや考えを言葉で相手に伝えられるようにする。 ・想像の世界を豊かにしていく環境をつくる。								
	2歳児	・友達への関心が十分に育ち、つながりが持てるようにする。 ・言葉で表現する喜びを味わえるような環境をつくる。 ・基本的な生活習慣が快い感覚として身に着くようにする。 ・みだて、つもり遊びを十分に保障する。				5歳児	・基本的な生活習慣を確立できるようにする。 ・仲間同士が協力する活動を十分に保障する。 ・イメージを豊かに持ち、それを表現する環境をつくる。 ・就学に向けた社会性を身につけられるようにする。								
保育の内容															
年齢		0歳児		1歳児		2歳児		3歳児		4歳児		5歳児			
養護	生命の保持	・一人一人の子どもの生活のリズムを重視して、食欲、睡眠、排泄などの生理的欲求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。		・一人一人の子どもの状態に応じて、睡眠など適切な休息をとるようにし、快適に過ごせるようにする。 ・安心して保育士との関係の下で、食事、排泄などの活動を通して、自分であろうとする気持ちが生える。		・午睡など適切に休息の機会をつくり、心身の疲れを癒して、集団生活による緊張を緩和する。 ・安心して保育士との関係の下で、食事、排泄などの簡単な身の回りの活動を自分で行うとする。		・午睡など適切な休息をとらせ、心身の疲れを癒し、集団生活による緊張を緩和する。 ・自分でできることに喜びを持ちながら、健康、安全など生活に必要な基本的な習慣を身に付ける。		・午睡など適切な休息をとらせ、心身の疲れを癒し、集団生活による緊張を緩和する。 ・自分でできることに喜びを持ちながら、健康、安全など生活に必要な基本的な習慣を身に付ける。		・午睡など適切な休息をとらせ、心身の疲れを癒し、集団生活による緊張を緩和する。 ・自分でできることに喜びを持ちながら、健康、安全など生活に必要な基本的な習慣や態度を身に付ける。			
	情緒の安定	・一人一人の子どもの状態に応じて、スキンシップを十分にとりながら心身ともに快適な状態をつくり、情緒の安定を図る。 ・一人一人の子どもの甘えなどの依存欲求を満たし、情緒の安定を図る。		・一人一人の子どもの生理的欲求や甘えなどの依存欲求を満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。		・一人一人の子どもの欲求を十分に満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。		・一人一人の子どもの欲求を十分に満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。 ・身近な動植物や自然現象に親しみ、自然に触れ十分に遊ぶことを楽しむ。		・一人一人の子どもの欲求を十分に満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。 ・身近な動植物に親しみ、それらに関心や愛情を持つ。		・一人一人の子どもの欲求を十分に満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。			
教育	健康	・保健的で安全な環境をつくり、常に体の状態を細かく観察し、疾病や異常は早く発見し、快適に生活できるようにする。		・保健的で安全な環境をつくり、体の状態を観察し、快適に生活できるようにする。		・保健的で安全な環境をつくり、快適に生活できるようにする。 ・保育士と一緒に全身や手や指を使う遊びを楽しむ。		・保健的で安全な環境をつくり、快適に生活できるようにする。 ・外遊びを十分にするなど、遊びの中で体を動かす楽しさを味わう。		・保健的で安全な環境をつくり、快適に生活できるようにする。 ・身近な環境に興味を持ち、自分から関わり、生活を広げていく。 ・身近な社会事象に親しみ、模倣したりして遊ぶことを楽しむ。		・保健的で安全な環境をつくり、快適に生活できるようにする。 ・身近な環境に興味を持ち、自分から関わり、身の回りの事柄や数、量、形などに関心を持つ。		・保健的で安全な環境をつくり、快適に生活できるようにする。 ・安全に必要な基本的な習慣や態度を身に付け、そのわけを理解して行動する。 ・様々な遊具や用具を使い、複雑な運動や集団遊びを通して体を動かすことを楽しむ。	
	人間関係	・安心して人的、物的環境のもとで、聞く、見る、触れるなど感覚の働きが豊かになるようにする。		・安心して保育士の見守りの中で、身の回りの大人や子どもに関心を持ち関わろうとする。		・身の回りに様々な人がいることを知り、徐々に友達と関わって遊ぶ楽しさを味わう。		・身近な人と関わり、友達と遊ぶことを楽しむ。 ・保育士や友達の言うことを理解しようとする。 ・友達とのつながりを広げ、集団で活動することを楽しむ。		・周りの人々に対する親しみを深め、集団の中で自己主張したり、また、人の立場を考えながら行動する。 ・異年齢の子どもに関心を持ち、関わりを広める。		・身近な人との関わりの中で、人の立場を理解して行動し、進んで集団での活動に参加する。 ・進んで異年齢の子どもたちと関わり、生活や遊びなどで役割を分担する楽しさを味わう。			
	環境	・安全で活動しやすい環境の中で、寝返りや腹ばいなど運動的な活動を促す。 ・姿勢を変えたり、移動したり様々な身体活動を十分にできるように、安全で活動しやすい環境を整える。		・安全で活動しやすい環境の中で、自由に体を動かすことを楽しむ。 ・絵本、玩具などに興味を持って、それらを使った遊びを楽しむ。		・身の回りのものや親しみの持てる小動物や植物を見たり、触れたり、保育士から話を聞いたりと興味や関心を広げる。		・身近な環境に興味を持ち、自分から関わり、生活を広げていく。 ・身近な社会事象に親しみ、模倣したりして遊ぶことを楽しむ。		・身の回りの人々の生活に親しみ、身近な社会の事象に関心を持つ。 ・身近な環境に興味を持ち、自分から関わり、身の回りの事柄や数、量、形などに関心を持つ。		・身近な社会や自然の環境と触れ合う中で、自分たちの生活との関係に気づき、それらを取り入れて遊ぶ。 ・日常生活に必要な事柄を見たり、扱ったりなどして、その性質や存在に興味を持ったり、数、量、形などへの関心を深める。			
	言葉	・笑ったり、泣いたりする子どもの状態にやさしく応え、発声に反応しながら喃語を育む。 ・優しく語りかけたり、発声や喃語に反応したりして、発語の意欲を育てる。		・保育士の話しかけや、発語が促されたりすることにより、言葉を使うことを楽しむ。		・保育士を仲立ちとして、生活や遊びの中で言葉のやりとりを楽しむ。		・生活に必要な言葉がある程度分かり、したいこと、して欲しいことを言葉で表す。 ・絵本、童話、視聴覚教材などを見たり聞いたりして、その内容や面白さを楽しむ。		・人の話を聞いたり、自分の経験したことや思っていることを話したりして、言葉で伝える楽しさを味わう。 ・絵本、童話、視聴覚教材などを見たり聞いたりして、イメージを広げ、言葉を豊かにする。		・様々な機会や場で活発に話したり、聞いたりして、生活の中で適切に言葉を使う。 ・自分の経験したこと、考えたことなどを適切な言葉で表現し、相手と伝え合う楽しさを味わう。 ・人と話し合うことや、身近な文字に関心を深め、読んだりすることの楽しさを味わう。			
	表現	・聞く、見る、触るなどの経験を通して、感覚や手や指の機能を動かそうとする。 ・絵本や玩具、身近な生活用具が用意された中で、身の回りのものに対する興味や好奇心が芽生える。		・身の回りの様々なものを自由にいじって遊び、外界に対する好奇心や関心を持つ。 ・身近な音楽に親しみ、それに合わせた体の動きを楽しむ。		・保育士と一緒に人や動物などの模倣をしたり、経験したことを思い浮かべたりして、ごっこ遊びを楽しむ。 ・興味のあることや経験したことなどを生活や遊びの中で、保育士とともに好きなように表現する。		・様々なものを見たり触れたりして、面白さ・美しさなどに気づく。 ・感じたことや思ったことを描いたり、歌ったり、体を動かしたりして、自由に表現しようとする。		・身近な事柄などに関心を持ち、それらの面白さ、不思議さ、美しさなどに気づく。 ・感じたことや思ったこと、想像したことなどを様々な方法で自由に表現する。		・身近な社会や自然事象への関心を深め、美しさ、やさしさ、尊さなどに対する感覚を豊かにする。 ・感じたことや思ったこと、想像したことなどを自由に工夫して、表現する。			
食育	食を営む力の基礎	・個人差に応じて授乳を行い、離乳を進めて、健やかな発育・発達を促す。 ・離乳を進め、様々な食品に慣れさせながら幼児食への移行を図る。		・様々な食品や調理形態に慣れ、楽しい雰囲気のもとで食べることが出来るようにする。		・楽しんで食事、間食をとることが出来るようにする。		・友達と一緒に食事をしたり、様々な食べ物を食べる楽しさを味わうようにする。		・食事をすることの意味が分かり、楽しんで食事や間食をとるようにする。		・できるだけ多くの種類の食べ物をとり、楽しんで食事や間食をとるようにする。			
健康支援		全園児内科健康診断(年3回) 0歳児健康診断(月2回) 身体測定(毎月) 歯科検診(2歳児以上 年2回) 視力検査(3歳児以上) 日々の健康状態の視診 家庭での健康状態の把握 食育の推進 保健指導(手洗い、歯磨き) 年間保健計画の作成 保健だより・給食だよりの発行 感染症の発生及び対応の広報													
環境・衛生管理		保育室・園舎・屋上遊戯場・周辺道路の清掃 0歳児玩具の洗浄・消毒 布団乾燥(年6回) 布団洗浄(年2回) 屋上砂場の消毒・清掃(年2回) 職員検便(毎月) 感染症の早期発見・周知徹底 衛生管理マニュアルの確認(随時) メール配信による情報提供 クロロア水による消毒作業													
安全対策・事故防止		避難・消火訓練(火災・地震、毎月) 大規模震災予知対応型訓練(保護者引き取り訓練、年1回) 消防設備点検(年2回) 非常時の食料・飲料の確保(備蓄品) 建物検査(年1回) AEDの設置 緊急地震速報受信機の設置 防火管理者講習の受講 上級救命救急講習の受講 事故記録簿の作成(毎月職員会議で確認)													
保護者、地域等への支援		保護者会(各クラス年2回) 保育参加(10月～12月ほか適宜) 個人面談(適宜) 連絡帳による情報交換(全児童 毎日) 園だより、クラスだよりの発行 地域育児相談(随時) 赤ちゃんの駅(板橋区) ゴミ拾い運動への参加(5歳児) 実習生・中高生等職場体験の受け入れ 町会主催の子ども祭りへの参加 町会防災訓練への参加 地区民生委員との連携 ウェブサイトの運営 SNSによる情報提供 第三者評価・利用者調査の実施と公表 見学・問い合わせへの対応													
研修計画		板橋区私立保育園園長会主催研修(保育一般・給食活動・保健活動・新人職員) 板橋区保育サービス課主催研修(全般) その他外部研修(適宜) 園内研修(運営方針・行政施策・保育実践・応急救護・防災・防犯・その他)													
小学校との連携		保育所児童保育要録の送付(年長児全員) 就学支援シートの作成(保護者より要請があった場合のみ)													
自己評価		施設理念・保育方針・保育課程の理解 第三者評価結果の理解(事業者調査・利用者調査) 保育士の評価(自己評価表の実施) 保育所の評価(事業計画の策定)													